

2020年度 法人事業報告

社会福祉法人 露の会 法人本部

1. コロナ感染症対策について

一昨年末に中国で広がった感染は全く間に世界中に拡散し、感染者は世界で1億1378万人（1.5%）日本で43万人、死亡者は253万人（感染者の2.2%）日本で7,900人（感染者の1.8%）になりました。

政府のPCR検査なし、GoToキャンペーンなどのチグハグな対策で感染が拡大し、医療崩壊や多くの生活苦を招きました。

法人としては、全施設の職員・利用者に基本的な感染防止対策をお願いすると共に、その対策費用の申請を促し、職員の休業補償等の対応をしました。

更に、毎月の施設長会で、それぞれの取組み状況を報告しあい。相互に改善に努めました。

2月に行った全職員の振り返り研修の報告書でも、法人のお願いが理解され、利用者、職員の感染予防のため職員の皆さんが協力し合ってもらえたことがよくわかりました。その結果として、法人全体で、感染された人（疑いのある人）はいませんでした。

2. 新規事業の取組みについて

- 1) 東京都のソーシャルファームについて都主催の説明会等に参加し、検討を進めて来ましたが、産廃等の新規事業の具体化の目途が立たず、2020年度内の申請に至りませんでした。改めて2021年度に申請すべく準備を進めます。
- 2) ひのき工房、リサイクル事業部の古紙回収有料化が実現し、安定稼働しています。お助け隊は、まだ試行錯誤の段階ですが、お庭の剪定、草刈りは、かなりの経験を積み、お片付、整理、ゴミ出しに引っ越しまで、作業の範囲を拡げながら、見積もり、アピール（宣伝による開拓）など検討しています。
- 3) 東京都のSDGsバッチの受注に向けて検討中ですが、もし受注できれば1件で1,000万円のオーダーという、初めての経験で今後の展開が楽しみです。

3. 施設課題の取組み

1) ふきのとう

- ① 障害福祉事業収入が、生活介護、就労継続Bの利用者定員によってどうなるかケース毎に精査し、生活介護20名が現実的であり、今後具体化に向けて検討していく。
- ② 希望する利用者・家族の意見も参考に聴きながら収支等全て試算してどんなG.H.にすべきか詳細な検討や家族へのアンケートを実施したが、期待しているとの感想で、特にGHを作ってくれとの意見はなく、以下の課題を継続議論していく。
 - ・障がいの重い人は、GHには入れない。
 - ・最後は、病院に入るか、なくなるまで施設で過ごすことにするのか。
 - ・終の棲家と公言して運営しているG.Hもある。

2) ころぼっくる

今の事業運営にあった職員体制に戻し、収支の赤字解消を行い、黒字化に向けた事業展開の方針について検討を開始した。

3) ひのき工房

就労支援事業の収入増のため以下の対応を進め収益増となった。

- ・リサイクル事業の有料回収化
- ・おたすけ隊の定着化
- ・イベント中止による売上減対策として遮蔽板など受注生産に注力

4) とぶきふねん

市職員より「雰囲気が悪い」等の指摘を受け、理事長が毎回出席して職員会議を開き、スタッフ全員の担当を決め、毎日全員が、一言でも報告する体制にし、報連相の徹底を図るなどして、改善に向かっている。

5) ぽぷら八王子

メンバー支援体制の確立と採用定着のための施設長業務に専念しできるように職長の育成も行ったが、生産増もありまだ達成できていない。

継続して、職員やメンバーの採用・育成を進め、施設長業務に時間がとれるようにしていく。

4. 職員の労働条件の改善

- 1) 毎年2%以上の賃金改善をしていますが、まだまだです。今後も改善するために何をすべきか各施設に対して具体的に示していきます。
- 2) 国の“働き方改革”に対応するため、正規・有期フルタイム、有期短時間、障がいのある職員、嘱託職員、それぞれの職務内容、職務権限、勤務条件等が比較できる一覧表をひのき工房、ひのき職員をモデルに作成し検討を行い、現状は法的には問題のないレベルであることを確認しました。今後は、未作成の職務記述書等の作成を行い、給与体系の見直しを進めて行きます。

5. 職員研修

- 1) 次を担う中堅職員研修に力を入れ、外部講師による研修も行うことが出来た。
- 2) 「チームOJT」の理解を広めるため、3施設で進めてきたOJTの成果報告会を行った。一部で「職員間のチームワークが改善された」とのうれしい報告も聞かれた。

6. 施設環境整備

今年は、コロナで委員による巡回は中止し、各施設からの報告レポートをまとめて配布した。

7. 地域貢献

- 1) 昨年も台風、集中豪雨により全国各地で大きな被害が発生し、無傷だった私達は御見舞の寄附を募り多くの皆さんの協力で、175,861円集まりました。
- 2) 子ども食堂も食事会を中止し、途中から食材配布に切り替えましたが、参加した多くの主婦に配布出来ました。

8. 法人設立20周年に向けての記念誌作成

記念誌の作成を進め、形にすることが出来た。今後は、更に、内容を精査しながら完成を目指して編纂を進めて行きます。

9. コロナ下でネックとなる本部と施設間業務のマニュアル化を行いました。

特に、給与、会計業務や本部と施設間で必要な作業や知識のマニュアル化を進めた。

- ・財務会計運用・決算仕訳マニュアル
- ・給与の運用マニュアル
- ・本部年間業務マニュアル等

2020年度 ふきのとう事業報告

社会福祉法人 菫の会 ふきのとう
施設長 清水潤児

I. 利用者支援

今年度はコロナ感染者を出さないことを第一に考えて運営・活動しました。それと同時にふきのとうの方針「社会参加の場」「居場所」「楽しく過ごせる場所」も継続し、コロナ禍でも閉所することなく利用者の方々が安心して通所できる施設づくりを目指してきました。

私たちの強みの一つにチームワークがあります。利用者・家族・職員が一体となり、協力し感染予防に向け取り組みました。マスク着用、食事中の決まりなど皆でルールを守りました。コロナ禍で私たちのポテンシャルが発揮できたのは新しい発見でありました。行事や出店などイベントが中止になり売り上げは減りましたが、その分じっくり作業に向き合うことができ、今までやったことのない作業にチャレンジできました。座席配置などの変更から利用者同士、新しい関係性を築くことができそれが楽しさに繋がりました。結果、縮小休み以外は例年通り休みなく通所されました。

縮小開所など、ふきのとうに関わる全員の協力のもと感染者を出すことなく、コロナ禍の今年度を乗り越えましたことは、職員にとっても大きな自信となりました。時には職員間で意見の相違もありましたが、1つずつ話し合いで解決していきました。職員は感染症に関しての知識を深め環境整備、利用者対応に活かしました。

法人内研修では、職員として組織の中での役割を再認識しOJTの実践報告を行い、より良い施設づくりに繋がりました。WEB研修では、職員各々が自主的に弱点強化に取り組みました。市の主催する虐待防止研修はコロナ禍でグループワークは中止したものの、全職員がレポートを作成しました。

ご家族の高齢化への対応としてグループホームに関する調査を行いました。市内のグループホームを見学し、実際の運営、経営について学びました。利用者・ご家族には「今後の在宅生活などに関する意向調査」を行い、「入所施設に関する情報の有無、将来望む暮らし方など」を伺いました。

集計結果をまとめ利用者・ご家族に配布しました。

1) 生活支援

感染対策の中にあっては施設と家庭の生活でも応用できる支援を心掛けました。その中で施設ならではの提供し、「感染しない」「感染防止」に重点をおき、より生活の質が向上していくよう皆で支援をしてきました。食事や排泄の支援、バイタル測定、リハビリ訓練、整容などで生活の質を高めてきました。適宜ケース会議を開き利用者の心身の状況変化を把握し、支援の方向性を検討、情報を共有し現場での

統一した支援にフィードバックしました。

クラブ活動ではハンドベルクラブは年度当初は見合わせていましたが、間隔を保ちながら縮小で再開しました。外部での公演はなくなるも常に新しい曲に挑戦しています。利用者の方々は音楽療法を兼ねての活動にポテンシャルを発揮しています。絵画クラブは、作成した作品を他施設などに飾り社会との関りを深めています。引き続き型に捉われず自分の感性を出し自己表現をしています。ふきのとうカレンダーも作成し利用者・職員に配布し皆で喜びました。

行事は相次いで中止になりましたが、施設内で3密にならないイベントなどを実施しました。

2) 就労支援

個人に合わせた作業を目指しました。作業が日常生活の動作向上（食事・整容等）に結び付くことを意識し、各個人に合わせた作業を模索しました。作業工程を複数の利用者でシェアし、思いやりやチームワークを育みました。

近隣や利用者のリサイクル回収を行いました。近隣の方で活動に賛同して下さる方が1軒増えました。

II. 木工事業

出店等が中止になり店頭販売がなくなりましたが、木工受注では、はちベビギフト、おもちゃ美術館、KURUMIRUを中心に例年と変わりなく注文がありました。

III. 地域との交流

コロナ禍で地域の行事等が中止になる中、リサイクル活動や畑の会は中止せず近隣の方々との交流は継続しました。

IV. 研修・職員ミーティング

- ・法人内研修～「リーダー・中堅研修」参加職員3名、「OJT研修リモート報告会」参加職員3名、「WEB研修」参加職員10名
- ・法人外研修～市が主催する虐待防止研修（1回目.全職員参加、2回目.3名参加）
「日中事業所連絡会全体会」参加職員1名、「サービス管理責任者更新研修」参加職員1名
- ・職員ミーティング～「毎日の朝礼（情報共有）」、「送迎・清掃後に1日のケース検討会議」、「週1回の定例会議」

V. 防火・防災対策

年に2回（9月火災・3月地震）、消防署と連携し避難訓練を実施しました。

災害時必要な物品（救急バック、簡易担架）の整備と食糧備蓄を確保し、非常災害対策計画を作成しました。

2020年度 ふきのとう事業報告

1 利用状況

事業	項目	月												年合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	開所日数(日)	21	18	22	21	17	20	22	19	20	17	18	23	238
就労B	定員	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	契約者数	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	
	延べ利用者数	43	37	36	59	45	52	63	62	58	45	57	77	634
	1日平均利用者数	2.0	2.1	1.6	2.8	2.6	2.6	2.9	3.3	2.9	2.6	3.2	3.3	2.7
	利用率(%)	20%	21%	16%	28%	26%	26%	29%	33%	29%	26%	32%	33%	27%
生活介護	定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	契約者数	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	
	延べ利用者数	205	157	203	194	162	201	221	185	198	165	173	224	2288
	1日平均利用者数	9.8	8.7	9.2	9.2	9.5	10.1	10.0	9.7	9.9	9.7	9.6	9.7	9.6
	利用率(%)	81%	73%	77%	77%	79%	84%	84%	81%	83%	81%	80%	81%	80%

2. 月次決算

①給付費収入

(円)

事業	月	月												年合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
当月	就労B	532,070	329,522	81,288	500,731	273,776	110,056	543,404	371,330	110,291	538,872	350,632	172,777	3,914,749
	生活介護	2,477,218	2,207,488	3,158,109	2,449,593	2,161,722	2,798,349	2,277,237	2,956,222	3,035,743	1,539,347	2,589,761	3,381,139	31,031,928
	合計	3,009,288	2,537,010	3,239,397	2,950,324	2,435,498	2,908,405	2,820,641	3,327,552	3,146,034	2,078,219	2,940,393	3,553,916	34,946,677
	今年度予算対比率(%) (36,500,000-)	99%	83%	107%	97%	80%	96%	93%	109%	103%	68%	97%	117%	95%
	昨年度	3,809,169	3,712,715	3,434,073	3,920,163	3,142,499	3,647,663	3,565,289	3,074,341	3,067,565	2,930,406	3,361,474	2,832,663	40,498,020
	昨年度実績対比率(%)	79%	68%	94%	75%	78%	80%	79%	108%	103%	71%	87%	125%	86%
累計	就労B	532,070	861,592	942,880	1,443,611	1,717,387	1,827,443	2,370,847	2,742,177	2,852,468	3,391,340	3,741,972	3,914,749	3,914,749
	生活介護	2,477,218	4,684,706	7,842,815	10,292,408	12,454,130	15,252,479	17,529,716	20,485,938	23,521,681	25,061,028	27,650,789	31,031,928	31,031,928
	合計	3,009,288	5,546,298	8,785,695	11,736,019	14,171,517	17,079,922	19,900,563	23,228,115	26,374,149	28,452,368	31,392,761	34,946,677	34,946,677
	今年度予算対比率(%) (36,500,000-)	99%	91%	96%	96%	93%	94%	93%	95%	96%	94%	94%	96%	96%
	昨年度	3,809,169	7,521,884	10,955,957	14,876,120	18,018,619	21,666,282	25,231,571	28,305,912	31,373,477	34,303,883	37,665,357	40,498,020	40,498,020
	昨年度実績対比率(%)	79%	74%	80%	79%	79%	79%	79%	82%	84%	83%	83%	86%	86%

②当期(月)収支決算

(円)

	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
当月	就労支援事業収入	154,486	108,772	50,093	39,522	46,305	75,644	95,494	65,266	120,096	84,052	125,311	114,696	1,079,737
	“ 支出	119,455	81,914	95,291	100,521	93,626	112,068	142,285	118,003	131,275	105,645	109,054	146,185	1,355,322
	“ 収支差額	35,031	26,858	▲ 45,198	▲ 60,999	▲ 47,321	▲ 36,424	▲ 46,791	▲ 52,737	▲ 11,179	▲ 21,593	16,257	▲ 31,489	▲ 275,585
	福祉事業他収入	3,702,835	3,232,118	4,011,397	2,698,324	2,891,826	3,365,269	3,811,565	3,856,378	3,615,689	2,541,848	3,514,643	3,890,216	41,132,108
	“ 支出	2,958,921	2,384,108	4,225,006	2,903,490	2,426,059	2,768,421	3,156,923	2,774,953	5,840,603	2,498,265	2,894,107	4,497,562	39,328,418
	“ 収支差額	743,914	848,010	▲ 213,609	▲ 205,166	465,767	596,848	654,642	1,081,425	▲ 2,224,914	43,583	620,536	▲ 607,346	1,803,690
	収支差額合計	778,945	874,868	▲ 258,807	▲ 266,165	418,446	560,424	607,851	1,028,688	▲ 2,236,093	21,990	636,793	▲ 638,835	1,528,105
累計	就労支援事業収入差額	35,031	61,889	16,691	▲ 44,308	▲ 91,629	▲ 128,053	▲ 174,844	▲ 227,581	▲ 238,760	▲ 260,353	▲ 244,096	▲ 307,074	▲ 307,074
	福祉事業他収支差額	743,914	1,591,924	1,378,315	1,173,149	1,638,916	2,235,764	2,890,406	3,971,831	1,746,917	1,790,500	2,411,036	1,803,690	1,803,690
	収支差額	778,945	1,653,813	1,395,006	1,128,841	1,547,287	2,107,711	2,715,562	3,744,250	1,508,157	1,530,147	2,166,940	1,528,105	1,528,105

③生産活動収支

(円)

	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
収入	木工	146,878	68,850	47,200	33,040	38,320	68,300	90,580	59,830	115,690	78,200	75,780	108,984	931,652
	リサイクル		37,135									40,935		78,070
	その他	7,608	2,787	2,893	6,482	7,985	7,344	4,914	5,436	4,406	5,852	8,596	5,712	70,015
	収入合計	154,486	108,772	50,093	39,522	46,305	75,644	95,494	65,266	120,096	84,052	125,311	114,696	1,079,737
支出	工賃	95,856	76,175	90,591	100,521	87,046	105,735	122,635	112,363	113,755	95,055	97,672	136,973	1,234,377
	諸経費他	23,599	5,739	4,700		6,580	6,333	19,650	5,640	17,520	10,590	11,382	9,212	120,945
	支出合計	119,455	81,914	95,291	100,521	93,626	112,068	142,285	118,003	131,275	105,645	109,054	146,185	1,355,322
	収支差額	35,031	26,858	▲ 45,198	▲ 60,999	▲ 47,321	▲ 36,424	▲ 46,791	▲ 52,737	▲ 11,179	▲ 21,593	16,257	▲ 31,489	▲ 275,585
前年度	収入合計	74,792	88,003	124,664	147,428	69,217	170,429	105,670	187,112	135,238	32,582	78,564	209,852	1,423,551
	支出合計	147,235	151,175	178,273	151,810	125,943	133,945	136,652	131,542	120,110	107,325	109,869	114,514	1,608,393

＜職員体制＞	施設長	1名	職業指導員	1名
	支援員	8名	看護師	1名
	事務員	1名	学生アルバイト	1名

(介護福祉士・・・4名、社会福祉士・・・1名、保育士・・・2名、看護師・・・1名)

2020年度 ころぼっくる 事業報告書

運 営 法 人	社会福祉法人 蔭の会 理事長 岩澤 六夫
事 業 名	障害児通所事業 (1) 放課後等デイサービス 地域生活支援事業 (1) 認定短期入所事業 (2) 日中一時支援事業
定 員	(1) 放課後等デーサービス 10人 (2) 認定短期入所事業 4人 (3) 日中一時支援事業 6人
施 設 長	秦 淳一郎
職 員 数	施設長 (1) 常勤職員 (1) 非常勤職員 (14)

< 1 > . 事業実績報告

① 放課後等デイサービス

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	159	147	186	179	119	167	180	166	156	144	150	187	1,940
人数	24	24	24	24	25	26	26	26	26	26	26	27	304

年間給付費収入：19,361,080円

② 認定短期入所事業（八王子市在住の方を対象とする） 月当たりの支給量 5日/月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	24	20	28	34	28	36	32	28	30	22	26	29	337
人数	11	7	9	12	10	11	10	9	10	8	9	9	115

年間委託料収入：3,504,984円

③ 日中一時支援事業（八王子市在住の方を対象とする） 月当たり支給量56時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間	169	205	225	242	184	225	236	204	197	208	198	212	2760
回数	52	60	69	70	54	66	68	59	57	57	57	62	731
人数	15	12	12	15	14	14	14	16	14	13	13	14	166

年間委託料収入：3,123,800円

< 2 > . 活動内容報告

1. 活動内容・・・～放課後等デイサービス～

・今年度のスタートは緊急事態宣言下中という状況ではありましたが、第1に安全に、第2に楽しくを柱にとりくんでいきました。とりくみの基本の流れは変わりありませんが、今まではおやつ後は音楽活動という流れでした。今年度はおやつ後にミニゲームを行い、その後に音楽活動という形に変えることでミニゲームでの盛り上がりや躍動感がそのまま音楽活動につながり、より能動的な音楽活動に変化していきました。そして、今年度の特徴として、高学年（中高生）を中心に司会進行からおやつ準備、造形活動用ファイルの配布～回収と高学年が主体となって生活を作っていくようにしていくことで子どもたち自身が受け身ではなく、主体的に見通しを持って動くことにつながり、また、子どもたちどうしの関わりも増えていき、その中で互いを知ること、そして相手にあわせて動く力も身につけていきました。もう一つはコロナ対応として、手洗いの徹底やマスクの着用を少しずつアプローチしていく中、夏にはみんなマスクをつけてのおでかけもできるようになりました。子どもたちはできる力をしっかりとっています。その力をどのように引き出すかがいかに大事かを感じた1年でもありました。

2. 活動内容 ～日中一時支援・認定短期入所～

- ・日中一時、認定短期入所についても前半期はコロナ不安によるお休みの方もいましたが、定期的にご利用されている方は基本、通常通りの御利用をされました。一人ひとりころぼっくるにきて楽しみにしている活動は様々で、カラオケだったり、DVD だったり、絵を描いたり、コラージュをしたり、職員との会話であったり、時には身体をまったりと休める場であったりと各々が自己の世界を楽しむ姿がありました。また、他者との関係も深まり、時には、自分の好きなことを相手が嫌なことについては、少し我慢したりする姿や今まで声をあまり出さなかった方がしっかりと声を出して歌を歌うようになったり、場面の切り替えが難しかった方がこちら側のアプローチによりスムーズに切り替えることができたりと継続的に関わる中で生まれた変化も見られました。

< 3 > . 運営面について

1. 職員研修

①<外部研修・見学>

- ・障害者虐待防止 WEB 研修（市福祉課）
- ・こぼん見学
- ・いちょう工房見学
- ・第2 高尾青年の家見学

*今年度、施設外研修により新たな見識を学び、様々な研修を通す中でそれぞれが自らの振り返りに多く繋げることができた研修となりました。

②<内部研修>

- ・法人研修の実施
- ・業務ミーティングの実施
- ・放課後デイ職員会議の実施
- ・WEB 研修の実施

*利用者のケース報告や実技演習を行い、業務の確認など情報の共有を図りました。

2. 地域との連携及び交流

① 関係機関との懇談・連携

- ・八王子市障害者地域自立支援協議会子ども部会・・・施設長出席
- ・なみき福祉会 相談支援スペース「ゆめ」懇談
- ・八王子子ども家庭支援センター懇談
- ・武蔵野会 相談支援事業所「もなか」懇談

② 地域交流

今年度はコロナ禍のため、様々な地域のイベントが中止となり参加することができませんでした。また、年間通じて、送迎ボランティア（1名）の方にご協力を頂きました。

3. おたよりの発行

<ころぼっくるだより>

- ① 夏休み期間の8月を除き、年11回発行しました。
- ② 利用者さんの「ある日のひとこま」を継続的に掲載していきました。
- ③ 今年は保護者の声を「ある日のひとこま」特別編として掲載しました。

<放課後デイころぼっくるだより>

殿入中央公園、高尾599ミュージアム、磯沼牧場へのお出かけから夏の水遊びの様子、室内集団あそびでの盛り上がり様子(ミニゲーム、歌あそび、造形等)、避難訓練の様子、中高生の姿を見てあこがれる小学生の姿、成長していく子どもたちの様子をおたよりを通して毎月伝えていきました。

4. 環境衛生及び整備

- ① 建物・設備の点検を行い、安全な環境を作るよう心がけました。
- ② 東京都共同募金会(B配分)を通して、室内保育活動用備品の整備を行いました。

5. 防災対策

- ① 定期的に防災機器や避難路の点検を実施しました。
- ② 避難訓練を実施し、児童、利用者と共に地震発生時の初動動作の確認と実際に一時避難場所までの集団での移動を行いました。

6. ヒヤリハット・事故報告

①ヒヤリ件数

4月・・・1件 5月・・・3件 6月・・・5件 7月・・・1件 8月・・・5件 9月・・・5件
10月・・・7件 11月・・・10件 12月・・・6件 1月・・・2件 2月・・・5件 3月・・・6件

*職員一人ひとりが現場での気づきをヒヤリ報告にあげるという意識も高まり、「心地良く、安全に楽しく過ごせるためには」を第一に、安全で楽しい施設づくりができつつあります。

②事故件数・・・0件

<4>. まとめ

- ・2020年度は、コロナ禍のスタートとなり、放課後デイ児童は学校がほぼお休みのため、基本家庭へのお迎え、日中利用の方は作業所をお休みすることとなり、ころぼっくるの利用をお休みされる人も多く、通常メンバーが顔を揃えるようになったのは6月ぐらいからでした。2020年度はお祭り等のイベントが軒並み中止となる中、少しでも生活が楽しくなるようにと放課後デイ、日中共に季節感を感じれるようなカキ氷作りやヨーヨー作り、キーホルダー作りを取り入れたり、放課後デイでは当番活動(役割)を取り入れ、子どもたちが自主性と見通しを持って活動ができる生活づくりへ変化していきました。コロナ禍での新たな生活様式に慣れることから始まり、当初、マスクは難しいであろうと思っていた利用者も習慣化し、マスクをしっかりとつけることができる姿や手洗い、手指消毒も上手に行えるようになり、日々の積み重ねと今回の生活様式への変化への対応力には目を見張るものがありました。また、放課後デイにおいては、支援学校から支援学級、学年は小1から高校3年生までと受け入れ幅はありますが、上の子が下の子を支えるといった場面、下の子は上の子の姿を真似て学んでいく場面と異年齢で生活するからこそその良さが2020年度もよく見えた年でありました。
- ・職員教育においては年間チームOJTを基本にしつつ、法人内研修、施設外研修により新たな見識を学び、施設内では、消防訓練、虐待防止研修等を実施してきました。様々な研修を通す中でそれぞれが自らの振り返りに多く繋げることができた研修となりました。
- ・関係機関の連携については、利用者の状況を家庭支援センター、支援学校、支援学級、相談支援事業所、作業所と共有し、市内の児童福祉課題については、八王子地域自立支援協議会子ども部会において共有をしていきました。

*資金収支については、決算書よりご確認をお願いいたします。

2020年度 事業報告

社会福祉法人 蔭の会 ぽぷら八王子

1、2020年度 総括

①2020年度、ぽぷら八王子は5周年を迎えることができました。コロナウイルス感染拡大防止の為、5周年記念行事は全員で、おいしい昼食を戴くことだけになりました。昼食もお弁当を取り寄せて、工場の食堂で戴きました。理事長のお話や開所から利用しているメンバーさん、スタッフの話などを聞きながら、楽しく過ごすことができました。

②また、今年度はコロナ禍の一言に尽きますが、ぽぷら八王子からは一人の感染者も出すことなく、運営できたことはとても良かったと思います。

③生産面での目標は、一日の目標が39000個、月目標が780000個、良品効率が99%以上というものでした。上半期はコロナ禍の影響もあり、生産数の月平均は763000個でした。生産する製品も普段とは異なる製品であったり、ずっと生産して来たアイテムが工程の中に組み込まれてこない状況でした。それでも、エフピコ様からの受注があったことはとてもありがたいことだったと思います。下半期になり、平常通りの製品が入るようになり生産数も伸びてきました。10月には、87万個を生産し過去最多の生産数を上げることができました。また、1、2月は恵方巻や、ひな祭りの製品の生産で、忙しい月となりました。そして3月には、22日稼働で925960個の生産数を上げることができました。下半期の平均生産数は87万個でした。1年間の平均は約791000個になり、目標を達成することができました。良品効率では2月を除く11ヶ月で99%以上を達成することができました。昨年に比べると、安定した生産を続け、飛躍の見られる1年でした。反省すべき点としては、3月に別注品で生産している製品で、クリームを出してしまった事です。糊が糸状になって製品についてしまっているものを出荷してしまいました。このクリームを受けて、メンバー、スタッフ全員で、もう一度検品を見直し、統一した検品ができるように練習を行いました。

④2020年度は精神面で障害のあるメンバーが休みなく続けることが難しいと感じた1年でした。昨年度から休みが多くなっている1名以外にも、一人暮らしを始めて、通所できなくなってしまった方、体調不良を訴えて、休みや遅刻が多くなってしまった方がいて、結局は続けることが難しくなってしまうました。実習を希望する方の中にも精神障害の方が多く来られますが、体調を管理し通所を続けることが条件となるぽぷら八王子の仕事はあまり向いていないのかもしれないと思われます。10月、B型では休みの多い方が1名いて、実質は5名で仕事をしている状況になってしまい、人手不足を痛感しました。そのような中で、2月にB型から1名A型に移行することができ、3月にも1名、A型の利用者が増え、登録者は8名になりました。B型では4月からお休みしていたメンバーが9月に復帰しました。3月には8名の登録になりました。

<利用状況>

就労日数 240日 (2020年3月)

項目	就労A	就労B	合計
定員(人)	10	10	20
契約者数	8	8	16

年間延べ利用者数	1,325	1,735	3,060
1日平均利用者数(人)	5.5	7.2	12.75
利用率(%)	55	72	63.8

<職員体制>

常勤職員	施設長・サービス管理者	1名
	職業指導員・生活支援員	6名
非常勤職員	生活支援員	1名
	事務員・送迎職員	3名

2、生産状況

生産活動 (毎月の出荷数と売上)

	4月	5月	6月	7月	
出荷数	816,165個	701,065個	819,750個	755,880個	
売上	2,962,679円	2,544,866円	2,975,693円	2,743,844円	
	8月	9月	10月	11月	
出荷数	711,450個	773,540個	870,250個	772,555個	
売上	2,582,564円	2,807,950円	3,159,008円	2,804,375円	
	12月	1月	2月	3月	合計
出荷数	778,575個	802,365個	772,625個	925,960個	9,500,180個
売上	2,826,227円	2,912,585円	2,804,629円	3,361,235円	34,484,998円

総括で報告した通り、一年を通して安定した生産をすることができました。

3、フロアホッケーと余暇活動と地域交流

フロアホッケーの練習は行いませんでした。また、大会も殆んどのものが中止となりました。

余暇活動としては、12月1日に5周年を迎えた日に、食堂で、理事長を迎えておいしい昼食を戴きました。八王子で生産したものではありませんでしたが、エフピコのウッド製品に入ったお弁当を全員で戴きました。また、3月3日のひな祭りでは、ぽぷら八王子で作った八角形のお弁当箱に入っているちらし寿司とから揚げ、豚汁を皆で戴きました。

地域交流もできませんでしたが、ひのき工房から、クッキーとパウンドケーキの販売に来ていただきました。メンバーさんもスタッフも楽しんで購入ができました。

4、安全衛生と健康管理

①災害・事故はない1年でした。

今年度もスタッフ、メンバーはヒヤリハット報告を行い、災害に対して意識付けをしてきました。危険に対しても各自が少しでも予測できるように考える習慣を身に付ける危険予知とレーニングも行いました。また、安全衛生会議を月一回行い、スタッフが安全パトロール結果を報告し、他工場・他施設での災害報告も受けながら、一人ひとりが安全や衛生について常に考えていくようにしてきました。

② 健康管理としては年一回の健康診断の実施と、インフルエンザの時期には全員に予防接種を行いました。2020年度も昨年同様コロナウイルス感染防止の為、朝、入場時、昼、退勤時に検温を実施し、手洗い、手指のアルコール消毒の徹底、できる限りの換気を行いました。また、メン（この報告書を作成している5月上旬現在感染者はいません）

③2020年度も八王子配送センターとの合同での避難訓練2回に参加しました。また、消火器訓練・消火用のホースにて実際に放水の訓練にも参加しました。メンバーが進んで参加することができました。

2020年度 見学者一覧

月日	見学者	人数
4/10	実習希望者・支援員	2
4/16	実習希望者・支援員	2
4/23	実習希望者・支援員	3
6/5	実習希望者・支援員	2
6/11	実習希望者	1
6/23	実習希望者	1
6/25	実習希望者・支援員	2

7/3	瑞穂町障害者就労支援センター戸村様	1
7/3	実習希望者	1
7/10	八王子福祉作業所志賀様	1
7/17	実習希望者	1
7/30	実習希望者	3
8/6	八王子特別支援学校高等部保護者・生徒	2
8/17	実習希望者	1
8/25	瑞穂町障害者就労支援センター戸村様	1
9/4	実習希望者	1
9/14	実習希望者	1
9/15	実習希望者	1
9/16	実習希望者	1
10/2	実習希望者	1
10/9	実習希望者	1
10/14	実習希望者	1
10/30	南大沢学園進路指導部教員	1
11/25	実習希望者	1
11/27	実習希望者	1
12/3	あきる野市障害者就労支援センター「あすく」眞宮様	3
12/8	実習希望者	1
12/10	実習希望者	1
12/17	あきる野学園インターシップ希望者・教員	2

1/7	実習希望者	1
1/8	実習希望者	1
1/8	あきる野市障害者就労支援センター「あすく」飯塚様	2
1/19	NPO 法人わかくさ福祉会障害者就業生活支援センター タラント北原様・実習希望者	2
2/5	あきる野市障害者就労支援センター「あすく」 眞宮様・飯塚様	2
2/16	南大沢学園生徒・教員	2
2/18	実習希望者	1
2/22	実習希望者	1
3/1	あきる野学園教員（進路指導）	1
3/3	実習希望者	1
3/10	あきる野学園教員（担任）	1
3/25	実習希望者	1

2020年度事業報告

社会福祉法人 菫の会 ひのき工房

1. 新型コロナ感染症拡大で多大な影響を受けた

2020年度は、コロナ感染症拡大により、運営面、生産活動売上、利用者レクリエーション活動等に大きな影響を受けた。2回の緊急事態宣言により、事業規模縮小を余儀なくされたが、全面閉所はせず利用者支援を継続した。感染の不安が増大する中でも、施設が開所しているなら通所したいと希望する利用者さんは多く縮小調整が難しかったが、一部在宅支援も実施し、利用者さんやご家族に、説明とお願いをしご理解をいただいた。

利用者の皆さんが楽しみにしている旅行やイベント中止も相次ぎ、縮小してでも感染対策を取りつつできるイベントを企画・実施した。職員は、チームワークで仕事や感染対策に取り組み、送迎車・作業車内、施設内及び外作業等で考え得る感染対策を職員会議等で何度も話し合い、その都度実行してきた。1日の通所者数を減らし密集を避け、換気、消毒など様々な対策を講じ、2020年度は幸いにも利用者・職員に感染者は出なかった。

1) 運営面の影響と対策 — 事業規模縮小・在宅支援開始

- ① 緊急事態宣言発令4月～6月：感染対策として1日の通所者数を減らし、開所時間短縮、開所日数減(5月に週1日休み)、在宅支援(20名以上、週1日～3日)を実施し対策を講じた。
(八王子市に届出)
安全のため嘱託医訪問相談(2か月間)、理学療法士リハビリ(3か月間)を中止せざるを得なかった。
- ② 7月～9月中旬：人工呼吸器使用の1名のみ在宅支援を継続実施
- ③ 緊急事態宣言再発令1月～2月：送迎車の密集を避けるため一部在宅支援を実施(週1日)
- ④ 3月：協力医療機関でコロナ感染者が発生したため、嘱託医訪問相談、PT、OTリハビリを中止。
- ⑤ 学校閉鎖時の小学生等のお子さんがある職員7名のお休みはあったが、職員の協力でカバーすることができた。(小学校休業等対応助成金等利用)
- ⑥ 事業規模縮小、感染対策等について利用者・ご家族様へお手紙・お知らせ等(9通)を配布しご理解を頂けるよう説明を行った。
- ⑦ 給付費収入への影響が心配だったが、前年度と比較すると年間67万円の減少に留まった。

2) 具体的な感染対策(上記運営面以外) 別紙1参照

マスク・消毒用アルコール等感染対策用品の購入、遮蔽版・網戸設置、オゾン発生器設置など、年間を通し考え得る感染対策を実施した。

2. 利用者支援と職員体制

- 1) グループホーム、相談支援事業所等と連携し個別支援を進めた結果、相談支援員とかかわる利用者が増え、近隣のグループホームに入居することができた。
- 2) 4月からの緊急事態宣言による自宅内生活が長引く中、持病をお持ちの利用者さんの病気が悪化しお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。
- 3) 職員体制については、新たに1名フルタイム職員が加わり、4月に主任1名、リーダー2名を任命、体制強化を図った。職員は、互いに協力し合い、同じ方向をむいて業務に励み、連携のとれたチームワークで取り組んだ。

4) 利用状況 別紙2 (別表1) 参照

開所日数 263日

項目	就労B	生活介護	合計
定員 (人)	28	12	40
1日平均利用者数 (人)	26.1	9.4	35.5
利用率 (%)	93.1	78.3	88.7

- ・ 前年度に比べ、就労Bの利用率は7.35%上がったが、生活介護は、コロナの影響を受けたこともあり前年度に比べ利用率は6%下がった。コロナに対する不安の大きい方、2か所の施設利用の方の長期休みがあった。
- ・ 入所者3名(就労B) ・ 退所者2名(就労B1名、生活介護1名)理由:死亡、他施設移動

5) 年間延利用者数推移 (人)

年度 事業	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
就労B	3,326	3,790	4,512	4,886	4,808	5,493	5,071	5,109	6,450	6,633
生活介護	1,540	1,706	1,908	2,037	2,083	2,124	2,166	2,395	2,196	2,639
合計	4,866	5,496	6,420	6,923	6,891	7,617	7,237	7,504	8,646	9,272

年度 事業	2019	2020
就労B	6,748	6,858
生活介護	2,859	2,471
合計	9,607	9,329

6) 職員スタッフ体制 (3月末現在)

- ・ ひのき工房職員25名、ボランティア3名

常勤職員	施設長	1名
	サービス管理責任者	1名
	職業指導員・生活支援員等	10名
	事務員	1名
非常勤職員 (短時間勤務職員)	生活支援員	2名
	調理員 (含生活支援員兼務)	3名
	看護師	1名
	理学療法士	3名
	作業療法士	1名
	事務員他	2名

3. 生産活動等

生産活動等売上：別紙2（別表2）参照

コロナ拡大の影響により、1年間イベント出店販売が全て中止となった。そのため、上期売上は、前年度と比べて約80万円の減収となったが、下期は、各事業部で工夫する等積極的に取り組み、売り上げを伸ばすことができた。特に、リサイクル、おたすけ隊の収益増と木工の遮蔽板大量受注（234万円）により年間売上は1639万円に達し、前年度売上を超えることができた。

1) 木工事業 年間売上 4,949,374円

- ・ コロナ拡大の影響で全てのイベントが中止となり、委託販売店では臨時営業休止となった店舗も出て、委託販売売上も減少した。（営業休止：道の駅1か月間・ネイチャーセンター3か月間）
- ・ 年間を通し通常品の製作数は減少したが、はちべびギフト製品は、月80～100個の注文があり、利用者さんの磨き・組立等作業を安定して継続することができた。
- ・ 下期は、コロナ対策の遮蔽板の注文が八王子市や市内の施設から相次ぎ、売上を伸ばすことができた。
- ・ プロット作業のできる利用者さんを育成でき、各作業工程に利用者さんが関わることができた。
- ・ 新商品開発やモデルチェンジを積極的に行い、KURUMIRU や道の駅滝山などに登録することができた。
- ・ 通信販売のpippoと契約を結び、当施設ホームページ以外でのネット通販を開始した。

2) リサイクル事業 年間売上 4,807,039円

- ・ 古紙取引価格は安値が続いたため、前年度末にそれぞれの顧客回収先にアンケート等を実施し4月から有料回収に切り替えた。約60%の回収先はそのまま継続していただくことができ、売上も安定した。
- ・ コロナ拡大の中、感染対策を取り、利用者さんも回収先毎に手のアルコール消毒を行うなど十分気を付けながら資源回収作業に励んだ。暑い中でも大雨でもパッカー車やダンプ車に乗り込み回収を行い、夏休みや正月休み等の連休中も通所して回収を行った。
- ・ 地元元八2丁目町会・3丁目町会の集団資源回収は、緊急事態宣言発令のため4月は中止となったが、その月以外は同じ日に実施し、回収を行うことができた。（9回）
- ・ 八王子市委託事業の薪作り作業は、コロナ拡大のため北野の足湯中止が続き、8か月間（5月～10月、1月、2月）売上は無かった。また、10月に新人職員の指創傷事故（労災）を起こしてしまった。この事故は薪割り機の操作時に起こしたもので、対策として、主任による安全講習を受けた職員だけが薪割り機を担当できることとした。
- ・ 新規作業の「おたすけ隊・おかたづけ隊」ではチラシ配布等を強化し、草刈りや剪定の依頼が増えた。

3) 霊園等清掃作業 年間売上 4,181,888円

- ・ 霊園清掃作業1件は、残念ながら11月で契約が終了した。
- ・ 次年度から第2高尾霊園の作業種類を増やすことができた。
- ・ 次年度から「夕やけ小やけふれあいの里」の清掃の一部を請け負うこととなった。

4) お菓子作り 年間売上 812,496円

- ・ イベントの全面中止、一言堂3・4月臨時休業等、年間売上は大幅に減少した。（37%減 前年度126万円）
- ・ 施設内販売や注文を中心に販売し、中でもほぷら出張販売は好評をいただいた。コロナ禍が続き、イベント販売は次年度も見込めないため、新たな販路拡大として、pippo通信販売と契約を結ん

だ。

- ・ 休まず安定して通所できた利用者さんは作業面で大きな成長に繋がり、自信と責任感が向上した。しかし、体調不良やモチベーションに波のある利用者支援については、今後の課題として残る。
- ・ 食品調理作業のため作業時の帽子・白衣・手袋の着用、管理を徹底し、特に手洗いには入念に行うよう声掛けをし、衛生面でのクレームはなかった。

5) 野菜作りと販売 年間売上 326,645円

- ・ トマト、キュウリ、なす、ピーマンなど夏野菜の他に、大根、ニンジンを作り、厨房でも使ってもらった。施設内販売でも新鮮でおいしい有機無農薬野菜は利用者の皆さんにも喜ばれた。余ったときは、ワークセンター、クリエイト、リボーンに買ってもらった。
- ・ 上恩方の畑を借り、スタッフ、メンバーも手伝ってそば作りに挑戦したが、撒種時季が遅く失敗した。
- ・ 今年度もニンジン、ブルーベリー、夏みかん、八重桜、レモングラス等をお菓子作りに使った。

6) 清掃、食器洗い、パソコン、請負作業等

- ・ 利用者さんの希望や適性を見ながら作業を担当していただいた。
- ・ パソコン作業は、個々の技術が向上し、ひのき工房便り作成に大きく貢献した。また、操作が出来るようになったことがモチベーションや自信に繋がった。

7) 生活介護 年間売上 404,461円 (かちかち君、ゴルフボール磨き)

- ・ 生活介護では、特に利用者さん同士のつながりを大切に協力しながら作業できるように努めた。
- ・ 今年度チャレンジした新規のかちかち君検品作業は、高単価であり、希望する利用者さんもいて継続して行うこととした。
- ・ パソコン作業では、「ひのき工房便り」の写真選別、加工、記事、給食メニュー、月間カレンダー、送迎運航記録表など、利用者さん中心で作成し、スキルアップのため簡単な書類作成も増やした。
- ・ 行事の飾りつけや創作活動に力を入れ、作品展にも積極的に参加した。
- ・ 生活介護での主な作業活動内容
かちかち君検品作業、ゴルフボール磨き、木工作业、パソコン作業、霊園清掃作業、清掃作業、野菜販売、お菓子作り、創作等

4. 利用者個別支援等

- 1) 利用者それぞれに担当職員を決め(担当職員体制)支援を行い、利用者の要望や相談に乗り、利用者支援の充実を図った。
- 2) 将来の生活を見据えた支援の必要な利用者さんに対し、グループホーム、相談支援事業所等と連携し支援を進めた。それにより、利用者さんの成長につながり、生活も通所も安定した。
- 3) 作業終了前の台ふきん配り、ごみ回収、ドアノブ・手すり消毒、清掃等、毎日利用者さんはそれぞれの担当を主体的に責任持って取り組んだ。
- 4) 支援方針に基づき各事業部毎に作業等支援方針・留意点等をまとめた支援一覧表を作成、職員間で情報を共有し、支援のマニュアル化を進めた。

5. 利用者健康管理

- 1) 地元医療機関八王子保健生活協同組合との連携は定着し、リハビリの指導、インフルエンザ予防接種など、利用者健康管理に大きな力になっていただいた。しかし、コロナ拡大の影響で訪問相談、リハビリを中止せざるを得ない月もあった。また、利用者健康診断は、城山病院への送迎・付き添い

は中止し、個々でかかりつけ等で受けていただいた。

4

- ・ 嘱託医訪問相談実施 9か月 (中止4月・5月・3月)
- ・ 理学療法士リハビリ実施 8か月半 (中止4月・5月・6月・3月半)
- ・ 嘱託医師の指導を受け、その人に合わせた歩行リハビリ、フィットネスバイク、手のリハビリ等は、職員が付添い、利用者の毎通所日に継続して行った。

- 2) 高血圧で心配の方は、毎通所日に血圧測定を行い血圧手帳に記録し、健康管理を行った。
- 3) 通所日は毎朝の体温測定の徹底を図り、37度以上の場合や体調の良くないときはお休みしていただき、また、緊急事態宣言期間中の在宅支援の利用者さんについて、電話または自宅に伺って健康面の確認を行い、利用者さんの健康管理、感染予防に注力した。

6. 行事等主な年間活動報告 詳細は別紙3参照

- 1) 今年度は、コロナの影響でほとんどのイベントが中止となったが、八王子市等の感染状況を見ながら感染対策を図って利用者さんが少しでも楽しめるイベントを実施し、少し豪華なお弁当やケーキを提供し利用者さんに喜んでいただいた。
半日会2回(映画・ゲーム)、ひのき工房祭り(利用者さん対象)、ミニクリスマス会、節分等
- 2) コロナの影響で、昼休みのレクを見直し、感染対策を取って出来るレク等を行った。トランプは中止し、将棋、テレビゲーム、卓球、絵本読みなどのレクリエーションや静かな会話(マスク着用)を楽しんだ。
- 3) 毎月行っていたアロマテラピー体験、手話会は年間を通し中止となった。
- 4) 今年度は、利用者の絵画等のカレンダーに6名の作品を使用し、壁掛けとスタンド型の2種類作製し販売。
- 5) 「2020年パラアート TOKYO」第7回国際交流展に本宮政吾さんの水彩画「夜明け」が入選、池袋にある東京芸術劇場内ギャラリーに展示された。八王子市発行のグループホームガイドブックの裏表紙イラストに山岡美紀江さんの「ゆかいな仲間」が採用されご本人は大変喜んでいました。

7. 地域交流・地域貢献

- 1) 今年度は、コロナ拡大により地域のイベント、お祭り、町会総合防災訓練等の中止が相次いだため地域交流は集団回収・小中学校の草取り以外は、ほとんどできない状況だった。
- 2) 学校運営委員も4年となり今年度末で辞退。小・中学校の花壇の草取りは、その時季に理事長と共に職員や利用者も行って喜ばれた。
- 3) 今年度の「子ども食堂」は4月から9月まで中止となり、10月から再開し食品配付を行った。その際、別館をお貸しし地域活動に協力、職員も受付、配付等に協力した。
- 4) 毎年協力してきた城山小学校の6年生の木工授業指導も中止となった。
- 5) 今年度もミニストップ元八王子2丁目店オーナー塩野様から、節分に利用者、職員全員に美味しい恵方巻を50本いただき、利用者さんも職員も大喜びでした。
- 6) コロナ拡大のため毎年恒例の「第12回ひのき工房祭」は、地域住民の方たちの参加を取りやめ、感染対策を徹底し屋外中心に行い、利用者さん対象のお祭りとして開催、イベント激減の中、利用者さんに大変喜ばれた。
- 7) 社会福祉協議会を通して市民の方、薮の会のボランティア、ご家族様等のご厚意で手作り等マスク、八王子市、きょうされんを通して企業様、マルベリーパイロット様から消毒液、使い捨て手袋など、多くの方々からコロナ対策品のご寄付を頂きました。不足していた時期もあり、大変助かりました。心から感謝申し上げます。
- 8) ひのき工房便りを毎月発行、行事など月間の予定や活動の様子、写真で利用者さんの様子などを

掲載し、利用者・ご家族の皆さんへお伝えした。また、地元町会の方たちへの配布も継続して行った。

5

- 9) 3月、城山病院に「コロナに負けるな」応援クッキー200袋の差入れを行った。先生、看護師さんに喜んでいただけて、お礼の言葉を頂いた。

8. 職員研修 詳細は別紙4参照

職員の資質向上と支援スキルアップを目指し研修を実施

- 1) 法人研修(2回 含講師訪問研修)に参加した全職員は、レポートを提出。
- 2) 本部で契約したウェブを活用した研修会をほぼ毎月実施することができ、フルタイム職員ばかりでなく短時間勤務職員も参加することができた。(12回、都度感想文提出)
- 3) 職員は、サービス管理責任者基礎研修(2名)・更新研修(1名)、八王子市虐待防止研修(ウェブ、14名)に参加。

9. 職員会議・職員業務ミーティング

- 1) 職員会議は、毎週木曜日夕方に実施。(正規・フルタイム職員は出席)
- 2) 職員業務ミーティングは、送迎車が戻り次第、屋外または展示室で毎朝9時半頃に行い、また毎夕にも業務ミーティングを行い、利用者さんの様子等情報を共有し、職員間の連携を図った。
- 3) 昨年まで毎朝行っていた法人の理念・支援方針等の唱和は、感染予防のため中止した。

10. 環境整備等

- 1) 地域住民の生活道路になっているひのき工房出入口の高速側道や敷地内も山桜、ひのき、もみじ、楓など大きく茂り、四季を通じて色々な花が咲き興味のある利用者、職員にはとても気持ち良い環境になってきた。年に何回も草刈りなどやっているスタッフ、利用者の皆さんに感謝します。
- 2) 館内や建物周辺を職員、利用者で担当して毎日清掃を実施し、5Sに努めた。
- 3) 各作業部から出た環境課題に環境委員が対応し、指摘箇所の改善を図った。
(書棚・冷蔵庫・飾り棚・下駄箱等の転倒防止)
- 4) ねずみ害虫検査・駆除・防除実施(年2回)、排管・グリストラップ清掃実施(年1回)。
- 5) 蕨の会後援会のご支援を受けて、利用者全員の団体生命共済保険加入を実施。(保険金100万円受領1名)
- 6) 感染予防のため、手すり・ドアノブ等の消毒回数を増やし、利用者・職員の朝の検温、送迎乗車前検温、来館者検温等も実施し、予防対策の徹底に努めた。また、しっかりとこまめな手洗い、アルコール消毒、マスク着用を毎日利用者呼びかけ、ご家族の皆様にもお手紙を配布し予防対策にご協力いただいた。
- 7) 共同募金A配分助成金をいただき、車いす4台用の送迎車(ハイエースワイド・ロング)1台を購入。
- 8) 共同募金B配分助成金をいただき、送迎車両2台にバックモニターを設置、これによりリフト付き送迎車全車両に配備済み。
- 9) 7月28日より7ヶ月間、ぽぶら八王子の朝送迎に協力(車両1台)

11. 防火・防災・安全対策等

- 1) 避難訓練実施
- 2) 消防設備点検を実施 機器点検・総合点検 一点検結果報告書を消防署へ提出。
- 3) インシデント報告 17件、事故報告 5件(内労災事故1件)

12. 第三者評価を実施 詳細は別紙5(5-1・5-2)参照

殆どの項目で良い評価をいただいたが、評価結果報告は3月末となったため評価機関からご指摘を受けたところは、次年度より改善できるように取り組んでいく。「とうきょう福ナビ」HPに結果掲載。

2020年度 実施した具体的なコロナ対策

ひのき工房

- ① マスクの手に入りづらい時期にいただいた、ご家族、職員、ボランティアさんの手作り布マスク、国から支給された布マスクを利用者・職員に配布(1人4枚)
- ② 通院・買物時に使える消毒用アルコール入りミニボトルを利用者・職員全員に配布
- ③ 昼食時の密集を避けるため、食事時間を2部に分け、多目的室も使用、テーブルは対面から一方向に変更、前横にパーテーション、扉前に大扇風機を設置し飛沫感染対策を行った。
各作業室にも遮蔽板を設置(塩ビ板スタンドを30台製作)。
- ④ 換気対策のため、常時、各部屋の扉・窓を開放し、木工部で網戸を製作(1階7か所、2階4か所)、業者に依頼し展示室の両開き扉に網戸を設置
- ⑤ 除菌効果のあるオゾン発生器(館内7台)、加湿器(3台)、ファン等予防対策製品購入
(新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業助成金活用)
- ⑥ 利用者さんの手洗い教室を実施、映像を見ていただいた後実際に手洗いを行い指導した。
- ⑦ 1か所に集まって行っていた朝の全体ミーティングを全体放送に切り替えた。(密集対策)
- ⑧ 施設内は、1時間毎にドアノブ、手すり、冷蔵庫、自動販売機、エレベーター、トイレ等のアルコール消毒を実施
- ⑨ 送迎車、パッカー車等は、毎回降車後にアルコール消毒(当初サライウォーター)を実施
- ⑩ 展示室入口にアルコールを設置し、利用者・職員スタッフは必ず手の消毒を行ってから建物に入るようにし、毎朝検温後、名簿に体温を記入
- ⑪ 来客者も、展示室入口でのアルコール消毒と名簿記入を実施、出来るだけ展示室で対応
(パン屋さん、ヤクルトさんも展示室で販売)
- ⑫ 送迎の利用者さんは、乗車前に体温を報告してから乗車(37℃以上の場合はお休みいただいた)
- ⑬ 少しでも体調不良の利用者さんは、無理をしないでお休みいただき、作業中に具合が悪くなった方も早めに自宅に送迎をするようにした。
- ⑭ 毎日、全体放送時や作業時に、手洗い、消毒、換気、マスクの着用、密集を避ける等注意喚起を行いコロナ対策の徹底を図った。

2020年度 利用状況

ひのき工房

(別表 1)

別紙2

事業 項目	月												合計	月平均				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
開所日数 (日)	22	21	23	22	20	23	23	28	28	28	23	20	20	20	22	24	263	21.9
定員	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	283	21.9
契約者数	37	37	37	37	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	336	28.0
利用者数	37	37	36	39	38	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	462	38.5
延べ利用者数	600	509	641	608	485	610	645	645	539	481	536	539	481	534	534	670	446	37.2
1日平均利用者数	27.3	24.3	27.9	27.7	24.3	26.6	28.1	28.1	27.0	23.4	23.4	27.0	23.4	24.1	24.3	28.0	6.858	57.5
利用率 (%)	97.4%	86.6%	99.5%	98.7%	86.6%	94.7%	100.2%	100.2%	96.3%	83.2%	83.2%	96.3%	83.2%	85.9%	86.7%	99.7%	—	26.1%
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	—	93.1%
契約者数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	144	12.0
利用者数	16	14	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	215	17.9
延べ利用者数	223	169	231	210	174	219	251	251	204	187	187	204	187	179	193	231	198	16.5
1日平均利用者数	10.2	8.1	10.1	9.6	8.7	9.6	11.0	11.0	10.2	8.2	8.2	10.2	8.2	9.0	8.8	9.7	2.471	205.9
利用率 (%)	84.5%	67.1%	83.7%	79.5%	72.5%	79.3%	90.9%	90.9%	85.0%	67.8%	67.8%	85.0%	67.8%	74.6%	73.1%	80.2%	—	78.3%

2020年度 生産活動売上

(別表 2)

科目	月												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
収入	186,136	211,840	130,938	156,720	186,473	130,721	184,104	274,078	161,745	316,077	317,539	2,691,003	4,949,374
木工	9,650	16,025	35,130	78,500	48,010	13,700	18,040	18,530	38,740	18,950	11,000	20,370	326,645
野菜	118,659	214,989	484,941	432,696	391,357	457,742	402,004	597,786	433,150	406,861	392,565	474,289	4,807,039
リサイクル	75,625	0	0	0	0	0	0	108,455	70,180	0	0	50,215	299,475
薪割	11,470	7,786	57,467	9,660	9,377	10,877	30,776	10,754	12,416	248,225	9,380	8,558	426,746
仕入品販売	20,709	15,377	31,968	32,667	20,671	26,779	50,771	48,180	28,113	78,111	59,195	-8,080	404,461
ゴルフボール ゴルフクラブ	2,400	59,293	37,176	85,383	33,691	63,056	107,398	64,008	163,167	79,584	41,180	76,160	812,496
お菓子	884,000	49,588	0	2,508,000	0	58,300	0	220,000	0	308,000	0	154,000	4,181,888
園芸清掃	13,918	3,070	15,108	11,604	7,631	11,037	11,215	0	55,557	13,884	17,271	25,999	186,194
その他	1,324,567	577,968	792,728	3,315,230	697,110	772,212	804,308	1,336,791	963,068	1,469,692	848,130	3,492,514	16,394,318
合計	772,576	600,223	966,458	1,472,437	758,249	904,950	1,026,482	856,232	1,689,676	760,828	817,537	3,052,569	13,678,217
工賃	85,504	157,388	241,354	148,057	124,467	182,732	240,508	351,509	280,866	489,604	258,354	379,381	2,939,724
諸経費他	858,080	757,611	1,207,812	1,620,494	882,716	1,067,682	1,286,990	1,207,741	1,970,542	1,250,432	1,075,891	3,431,950	16,817,941
支出合計	466,487	-179,643	-415,084	1,694,736	-185,606	-315,470	-462,682	129,050	-1,007,474	219,260	-227,761	60,564	-223,623
収支差額	758,187	1,027,122	1,611,160	3,527,765	663,057	693,629	666,631	1,637,474	1,095,260	1,345,178	2,192,687	960,080	16,178,210
収入合計	1,140,311	1,015,775	2,071,488	1,055,758	953,507	1,024,979	1,299,441	1,318,107	1,858,637	1,167,462	1,157,534	2,617,058	16,680,057
支出合計													

当年度

前年度

2020年度 活動報告

ひのき工房

4月

- 11日(土) 町会資源回収 中止
17日(金) 嘱託医師訪問相談・PTリハビリ 中止

5月

- 嘱託医師訪問相談・PTリハビリ 中止
福祉祭り 中止

6月

- 13日(土) 町会資源回収
19日(金) 嘱託医師訪問相談(再開) PTリハビリ 中止
害虫駆除・配管清掃・グリストラップ清掃
手洗い講習会・手洗い支援実施

7月

- 17日(金) 嘱託医師訪問相談、PTリハビリ(再開)
27日(月) 新送迎車、納車・ラウム車、廃車
網戸設置(木工部)

8月

- 1日(土) 町会資源回収
20日(金) 嘱託医師訪問相談
オゾン発生装置設置
網戸設置(業者)

9月

- 12日(土) 半日レク会(利用者31名・職員14名参加)
17日(金) 嘱託医師訪問相談
29日(水) 震災・火災避難訓練

10月

3日(土) 子ども食堂 食品配付
16日(金) 嘱託医師訪問相談
17日(土) 町会資源回収
30日(金) ひのき工房祭り(内々)

11月

7日(土) 子ども食堂 食品配付
20日(金) 嘱託医師訪問相談
いちよう祭り 中止

12月

6日(日) 町会資源回収
12日(土) 子ども食堂 食品配付
18日(金) 嘱託医師訪問相談
24日(木) クリスマス会 (利用者40名・職員22名参加)
26日(土) 利用者・職員 仕事納め

1月

9日(土) 子ども食堂 食品配付
15日(金) 嘱託医師訪問相談

2月

手作り作品展 中止
2日(火) ミニ節分会
13日(土) 子ども食堂 食品配付
嘱託医師訪問相談

3月

嘱託医師訪問相談・PTリハビリ 中止
3日(水) ミニひな祭り会
13日(土) 子ども食堂 食品配付

令和2年度 職員研修一覧

年月日		研修内容	主催・講師等	参加人数 (名)	内・外部	
令和2年	5月	21日	(ウェブ研修)「アセスメントの目的」	施設研修	12	内
	6月	4日	2020年事業計画	施設長研修	14	内
		11日	2019年事業報告	施設長研修	13	内
		25日	(ウェブ研修)「利用者の真の主訴を考える」	施設研修	11	内
	7月	2日	(ウェブ研修)「クレーム、苦情対応 実践編」	施設研修	14	内
		9日	会計:決算書(資金収支計算書)の見方	施設研修	13	内
		16日	(ウェブ研修)「ヒヤリハット報告の目的と意義」	施設研修	14	内
		30日	(ウェブ研修)「個人情報の取り扱い」	施設研修	13	内
	8月	6日	(ウェブ研修)「異常の早期発見のための観察の視点」	施設研修	11	内
		20日	令和2年度第1回東京都サービス管理責任者基礎研修(2日目) 「相談支援従事者初任者研修(講義部分)」	東京都	2	外
	9月	7日	令和2年度第1回東京都サービス管理責任者基礎研修(3,4,5日目)	東京都	2	外
		8日	令和2年度第1回東京都サービス管理責任者基礎研修(3,4,5日目)	東京都	2	外
		10日	国際生活機能分類(ICF)	施設長研修	14	内
	11月	13日	リーダー&中堅職員研修 キャリアコンサルタント 永久理恵	法人研修 (23名)	8	内
		19日	(ウェブ研修)15分で学ぶ障がい者支援の基礎 「個別支援計画とケース記録」	施設研修	13	内
令和3年	1月	7日	令和2年度東京都サービス管理責任者更新研修 (ウェブ研修)	東京都	1	外
		13日	(ウェブ研修)短時間勤務職員研修 「障がい者のニーズと支援」	施設研修	4	内
		15日	(ウェブ研修)短時間勤務職員研修 障がい者との関係構築「障がい者とのコミュニケーション」	施設研修	1	内
		21日	(ウェブ研修)15分で学ぶ障がい者支援の基礎 「自閉症スペクトラム障害の理解 ①」	施設研修	1	内
		28日	障害者虐待防止研修(チェック表)	施設研修	13	内
	2月	3日	令和2年度東京都サービス管理責任者更新研修	東京都	1	外
		4日	(ウェブ研修)15分で学ぶ障がい者支援の基礎 「自閉症スペクトラム障害の理解 ③」	施設研修	14	内
		18日	(ウェブ研修)虐待防止研修	八王子市	14	外
		19日	(ウェブ研修)OJT研修	法人研修 (10名)	5	内
	3月	18日	(ウェブ研修)15分で学ぶ障がい者支援の基礎 「自閉症スペクトラム障害の理解 ④」	施設研修	14	内
				総参加人数	224	

R3.3.26 提承済

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。
「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況報告書

事業所名		ひのき工房		第三者評価受審年度	2020	年度
項目	評価結果に基づく現状分析 2020年度	改善計画 2020年度末時点	実施状況 2020年度末時点	実施状況 2021年度末時点	実施状況 2022年度末時点	
災害時・感染症対応と継続計画(BCP)について	2020年度はコロナ感染症が拡大し、事業継続計画策定の必要性を強く感じています。災害時の事業継続計画書も未 completion ので合わせて作成する必要があります。	コロナ感染症対応事業継続計画書作成に着手し、2021年4月には完成予定。 災害時のBCPは2021年5月から着手し、6月に完成予定。	コロナ感染症対応事業継続計画書作成に着手し進めている途中です。			
短時間勤務職員との情報共有について	毎日夕方に行われているミーティング、毎週の職員会議に参加できない短時間勤務職員・ポアンテアとの情報共有が不十分です。朝のミーティングは、厨房に入る職員は出られませんが、時間が短く連絡事項を伝える程度になってしまっています。情報共有の仕組み作りが必須です。	パソコンの共有フォルダ内に「ひのき工房掲示板」を作成し職員全員がいつでも閲覧、書き込みできる情報共有システムをつくりました。また以前より実施している職員会議の議事録を、閲覧後にサインをしてもらうことを再度、周知徹底します。 緊急を要する際は各部署で臨時招集し、リーダーを中心としたミーティングを行う体制づくりを整えます。	全ての職員に周知が終了しました。2021年3月より、リーダー会を実施し、リーダーを中心に各部署での伝達事項を共有しています。			
工賃支給の仕組みのさらなる理解への工夫について	工賃支払いの仕組みを理解されない利用者が多いため、一人一人の理解度に合わせた丁寧な説明がより必要です。	利用者へ工賃の仕組みを理解しただけでは、分かりやすい説明書等を作成し、必要に応じて口頭での説明や、個別・作業種目別グループでの面談を行い説明します。 売上や収支バランスを分かりやすく見やすい図表で作成します。	各作業の売上・工賃・経費の毎月の収支表を見やすく拡大し、1階・2階作業場に掲示しました。			

※この様式は、「八王子市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。
※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照し、施設が独自に決めています。
※第三者評価の結果は、施設において公表しています。

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	地域貢献活動をおこない地域との関係構築・連携に力を入れています
	内容	法人の理念には「安心して暮らせる地域社会の実現」を掲げており、事業所としては法人と連携して地域との交流を大切にされた地域活動を様々な形で展開しています。地元町会の資源回収、防災訓練、地元のお祭りなどに積極的に参加し、利用者が地域と交流する機会を増やしています。地域住民からも積極的に声をかけてくれる関係になっています。地域の子供食堂の立ち上げには、場所の提供や食品配布などで協力しています。コロナ禍でイベントは縮小していますが、良好な地域関係が継続しています。
2	タイトル	利用者の状況等の情報は会議やミーティング、OJTで共有する仕組みがあります
	内容	職員による毎朝の業務ミーティングや毎週一回の職員会議では業務の確認、利用者の様子の報告や対応の確認等をおこなっています。朝のミーティングはコロナ禍では屋外で行うなどの工夫をすることで継続しています。会議やミーティングで伝えきれない個別の情報やスキルに関することは、主任を中心としたOJTに力を入れ、各職員に計画を立てて伝える仕組みを作っています。特に支援上の利用者個別の対応や、作業の段取りについて等OJTを進めるなかで、チームワークの醸成にもつながっていることが、職員アンケートからもうかがえました。
3	タイトル	地域のニーズに答えた社会活動の展開から片付けサービスの活動が広がっています
	内容	事業所のある住宅地域の特性から、防災訓練の参加、リサイクル活動の協力、さらに子ども食堂の立ち上げ協力など、地域と共にある福祉施設として地域活動を展開しています。さらに、近隣の地域の高齢者の方の要望から廃棄したい家具の運び出し、分別ゴミの仕分け、回収、ゴミ出しなど片付け代行サービス「おたすけ隊」の活動を開始しました。チラシを配ることで、地域の高齢者などからの希望が増えて、収益が上がっており、地域活動が地域貢献に展開しています。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	災害時や感染症対応としてのBCP計画や個人情報保護の対応が求められています
	内容	災害時の対応としては、「非常災害対策計画書」が作成されていますが、災害時のBCPとコロナのBCPの策定は策定する必要性を強く感じており、策定を検討している所です。又、個人情報保護については法人での規定を使用していますが、職員の個人情報保護の認識が低いと、認識を深める研修の実施を予定しています。個人情報の管理や取り扱いについては、職員の意識に左右されることを常に念頭に置いた日々の支援が求められるため、早急な対応が求められています。
2	タイトル	短時間勤務職員などとの情報共有や会議不参加者との連携が課題です
	内容	職員構成のうち半数近くを占める短時間勤務職員やボランティアとの情報共有が課題です。時間的に職員会議に参加できないスタッフのために臨時的打ち合わせを開催していましたが、安定した情報共有のために、今後、リーダーが中心となるシステムづくりを検討実施していくこととなっていますので、早急な対応が望まれます。また、パソコンの共有フォルダを使った情報共有の工夫など、確実に伝達できる仕組み作りにも取り組んでいることで、支援向上への意識が高まっているところですので、情報共有の仕組み作りが待たれています。
3	タイトル	利用者の工賃支給の仕組みのさらなる理解への工夫が望まれます
	内容	毎月の各事業別売上・工賃の献労支援事業会計収支表を1階に掲示しています。又、工賃規程を説明後、見やすい場所に掲示するなど、工賃等のしくみについて、利用者説明しています。利用者調査の自由意見では、工賃の仕組みが理解できていないという意見が複数あったため、利用者の理解度が利用者によって異なっていると思います。説明を求める希望者には、利用者の理解度に合わせて説明したり、売上や収支バランスを見やすく可視化するなど更なる工夫が望まれます。

2020 年度 事業報告

社会福祉法人 露の会 とぶきふねん

1. 受託業務を質、作業効率共に100%完遂する。

1) 受託業務の質、作業効率を向上させる

作業の効率と質（異物混入の防止）の向上のため、全体会議や昼礼時に時間を割いて話し合いを重ねました。作業に慣れている複数の人にそれぞれがどのような作業の進め方をしているかを話してもらおうと共に、各自がそれを基に色々な方法で作業を試してみて自分に合った効率と質の両立が出来る方法を考えるように伝えました。

年末、年始等繁忙期の対策（人員配置、必要物品の準備）を事前に計画・準備し年末は計画通りに処理できました。しかし年始早々のコロナ緊急事態宣言が出されたため、手選別ラインの稼働時間が延長された結果、有害ごみの分別に多くの人員を割くことができなくなり、有害ごみ（特に電池）の仕分け作業に大きな影響が出ています。残業や休日出勤により極力受託業務の完遂を試みっていますが、疲労などの蓄積が今後に与える影響は少なくないものと考えます。

〈OJT の実践〉

知的障害のあるメンバー1名に対し職員2名が担当してOJTによる職業指導を行いました。作業を理解し覚えるのに時間がかかるだけでなく、確認作業や状況判断などまだまだ身につけなくてはならないスキルは多いですが、本人も真面目に取り組んでいます。

2) 異物混入クレームとその対策

- ① スプレー缶のフレコンバック及びライターのドラム缶内に乾電池などの異物が混入しているとのクレームが3回ほどありました。発火性の高いリチウムポリマー電池が混入していたことがその大きな理由とされます。スプレー缶と乾電池に関しては、全員集めてどのような時に異物混入が起こりやすいかを話し合い、異物混入しないよう注意を呼び掛けました。
- ② ライターに関しては、従来混入して良いとされていた電子ライターを分別して欲しいとの依頼がありました。これも電子ライターに内蔵されているリチウムポリマー電池が発火の可能性があることが原因とのことです。ガスライターと電子ライターの外見上の違いを全員に説明し混入を防止すると共に、ドラム缶に投入する人を作業になれた人に限定し、二重チェックを行うことにより混入をなくすようにしました。
- ③ 蛍光管（割れ管）のドラム缶にビニールや瓶のキャップが混入しているとのク

レームが1回ありました。これは床に落ちた割れ管を箒で掃いて割れ管の箱に入れていたことが原因の一つと考えられるため、また床に落ち箒で集めた割れ管は可燃ごみとして処理し、塵などが混入しないようにしたうえ、割れ管をドラム缶に投入する人を限定して異物の混入を極力排するようにしました。

- ④ 処理磁性に入れられていた未使用の燻煙剤がコンテナ内で発煙したとの報告がありました。未使用品と使用済み品との区別を瞬時にするのが難しい場合もあることから、燻煙剤は全て可燃ごみとして対処していくことを市了承を得たうえで決定しました。

2. 労災ゼロ・コロナ感染者ゼロの実現

1) 安全衛生推進委員会

- ① 安全衛生推進委員会 10回開催
稼働停止日に開催しました。コロナ感染防止のため、緊急事態宣言下の期間は晴れた日に外でソーシャルディスタンスを保ちながらの開催としました。
- ② ヒヤリハット 59件
(2019年 10件)
- ③ 労災ゼロ継続中
昨年度に引き続き本年度も労災ゼロを達成出来ました。

2) コロナ対策について

- ① 下記の期間、基礎疾患のある方を自宅待機としました。
2020年4月8日～5月8日
メンバー3名、高齢のスタッフ2名
2021年1月11日～メンバー1名
(基礎疾患のあるSさんに関しては、自家用車による出勤のため感染リスクは低いと考え自宅待機とせませんでした。その代わりに他のメンバーや職員との接触を避けるため、休憩時間や昼食は独自の時間帯で取れるようにしてもらいました。)
- ② 時差出勤および時差退勤を行いました。
自動車、バイク、自転車、徒歩通勤の人は通常通りの出勤に、バス等公共交通機関を利用の人は交通機関の込み具合を基に、状況に応じて1時間遅い出勤などの対応をしました。
- ③ 手洗い、うがい、マスク着用の励行、次亜塩素酸水による手すり及びドアノブの消毒、マスクは使い捨ての不織布マスクを毎日一人当たり2枚ずつ支給、石鹸による手洗いのほか、消毒用アルコールを各部屋の入り口などに設置し消毒の励行も行いました。設置台は佐久間さんに依頼して作ってもらいました。

安全衛生推進委員会で度々コロナ対策について話し合いを持ち、コロナ対策の意識付けを行いました。

- ④ オゾン発生器を食堂及び休憩室に設置しました。
- ⑤ 食堂、喫煙所、休憩室では席を一つずつ空けて座るようにし、3密にならないようにしました。
- ⑥ 食堂と事務室のテーブル上にアクリル板を設置し、飛沫拡散の防止に努めました。

おかげで感染ゼロを達成しました。

3. とぶきふねんで働く皆にとってより良い就労の場を作ろう

1) 職員会議

- ① 16回開催（議事録14回）
- ② 職員の担当業務、支援担当を決めて実施

2) 報連相

代理人による日報の他に、職員間の報連相を図るための日報を本部へも毎日 FAXにて送信（11月16日より）することにしました。

3) メンバー支援

- ① メンバー支援担当（メインとサブ）を決め、メンバーそれぞれの雇用支援計画を策定しました。
- ② 職員会議にてメンバーの状況の報告が行われるようになったため、職員の意識がメンバーの体調などに向けられやすくなりました。また、担当でないメンバーの状況も報告されるため、担当者が見ていないメンバーの状況なども把握しやすくなり支援がしやすくなりました。
- ③ 障がいのある方にとってより良い就労の場を創る

一昨年から行っているメンバーミーティングや全体会議、あるいは個別面談によりメンバーが働きやすい職場をつくれるように努めてきました。ただ昨年度より一生懸命働き本人の希望もあったことからフルタイムでの勤務となったメンバーが折からのコロナ緊急事態宣言による自粛生活による精神的な疲れや人手不足による疲労の蓄積などにより結果的にひのき工房へ転籍となってしまいました。またメンバーをサポートすべき立場にある職員が初夏あたりから特定のメンバーとの間で些細なトラブルを抱えるようになり、秋ごろにはそれまで雰囲気が良いと市や他の業者から言われていた「とぶきふねん」の雰囲気に影を落とすようになりました。そこで理事長の出席のもと職員会議などを開き改善を図りましたが、年末年始から休みがちになり、元の状態に戻れるにはまだ時間がかかりそうです。